

白峰

白峰 翠

第55号

2025年7月1日
横浜市港南区港南台4-4-5
045 (835) 8119 (直通)
045 (833) 7100 (大学)
横浜女子短期大学
小百合合同窓会
会長 大河原 翠
小会 長 友 善
小会 長 友 善

おさな子に学ぶ

小百合合同窓会 会長

S43年卒 大河原 翠



皆様のお力添えと感謝しています。

戦後、昭和22年の日本の平均寿命は50歳だったそうです。それが今では人生80年。

そのような意味でも時代は変わりました。横浜女子短期大学小百合合同窓会も1948年(昭和23年)第6回卒業生6名により創立され、創立から80年余り経ち会員数も13,000人余りとなり、会員の年齢差も大きくなりました。同窓会に対する「思い」も「考え」も同窓会創立当時とは大きく変わってきていることを日々感じています。

横浜女子短期大学と小百合合同窓会の歩みを重ね合わせ80年の歩みを顧みますと時の流れの速さを感じるとともに時代と共に歩んだ横浜女子短期大学の貴重な歴史を感じずにはられません。

歴史学者 色川大吉さんは平野恒先生ご自身が書かれた「児童福祉とわが人生」の中で先生をしのいで「先生は児童福祉事業のいばらの道を開いて、大戦争下の惨禍をくぐり敗戦後の飢えと荒廃の中、親から離

された子どもたちを守り生き抜き、半世紀を超える戦いを続けてこられた。白峰会を守り発展させ、横浜に保育の専門大学を樹立したのも先生の力であり、ひとえに平野恒先生のなりふり構わぬ奮闘貢献無くしては考えられない。」と書かれています。

しかし現在、平野恒先生の幼児教育に対する強い想いで創立された横浜女子短期大学は、近年18歳人口の減少と進学希望者の四年生大学志向、保育志望者の減少など背景に志望者の減少を余儀なくされてきました。大学も学生数の回復を目指し教育課程見直しなど、学生募集対策に取り組んできたようですが2025年の横浜女子短期大学定員充足率は3割に満たず、ついに2026年度学生募集停止が決まり、2025年2月28日に発表されました。

横浜女子短期大学を卒業した同窓生は、常に横浜女子短期大学で学んだことを誇りに思い「私たちの大切な学校」と思っています。

横浜女子短期大学の歴史は途絶えても創立者平野恒先生の建学の精神「愛と奉仕」の精神は今後も同窓生に引き継がれ、卒業生一人一人の人生に、また幼児教育の世界で受け継がれていく事と思います。

今後とも横浜女子短期大学小百合合同窓会会員の皆様方のご理解とご協力ご支援を心からお願ひ申し上げます。

保育科への「コース制」導入について



学長 佐藤 寛之

小百合合同窓会の皆様、ご健勝で過ごしでしょうか。

本学では今回、教育課程全般の見直しを行い、履修科目の内、通年科目の半期分割の推進、履修配当年の見直しなどを進め、従来の教育課程より履修しやすいように改善を図り、2025年度保育科入学生より「コース制」の導入を行いました。

横浜女子短期大学は、1966年度より保育科単科の短期大学として、卒業と同時に、保育士資格(開学当時は「保育資格」と幼稚園教諭二種免許を取得可能とする教育課程を維持してまいりました。今回の保育科のコース制導入は、近年の急激な入学者の減少への対策、取組みの一環でした。また、コース制導入と合わせて入学定員を200名から150名に削減しました。

今回、入学時に選択できるコースとして、本科コースと専科コースを設定しました。本科では、従来同様に、保育士資格と幼稚園教諭二種免許の取得を目指しますが、本科は、さらに2年課程と3年課程に分け、「本科 2年課程」は、いままで同様の主流の教育課程となっています。「本科 3年課程」は、新たに長期履修制度を活用し、時間割を調整して、登校日数を週3日に抑えることなどにより、3年間で、少しゆったりと学びを進めることができるコースとなっています。

一方、専科では、保育士資格取得に特化した「専科 保育士養成コース」と幼稚園教諭二種免許取得に特化した「専科 幼稚園教諭養成コース」を設定しました。専科の各コースの修業年限は、2年となります。

「本科 3年課程」と専科の各コースは、1年間で履修する科目数が、「本科 2年課程」と比較して少なくなりますので、それに合わせた授業料設定になっており、必要な、希望する資格取得、履修年限、経済的負担の軽減等を工夫することで、様々な進学希望者のニーズに対応できるよう工夫したものです。

また、神奈川県の特設職業訓練制度にもとづいて、保育士資格取得及び就職支援を本学で実施する職業訓練生の受け入れも行うこととなりました。

しかしながら、このような取組みにも関わらず、「本科 2年課程」「本科 3年課程」「専科 保育士養成コース」併せて保育科全体の入学予定者数は、2024年度の約6割に留まり、このようなコース制導入等の工夫をしても、残念ながら、入学者の減少に歯止めをかけることはできませんでした。

小百合合同窓会と横浜女子短期大学は一心同体も同然です。本学のこのような状況について、小百合合同窓会の皆様の期待に応えることができず、大変申し訳なく思っております。

本学といたしましては、引き続き在学生と2025年度新課程の入学生が、資格、免許を取得し、保育者として社会に羽ばたいていけるよう、しっかりと教育活動を継続してまいります。何卒ご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

本学の歩みに 想いを寄せて

名誉会長 船田 松代



2025年4月2
日、60回入学式が挙
行されました。

横浜女子短期大学

の最後の入学式です。私は監事として、また同窓会名誉会長として参列させていただきました。

横浜保母学院・横浜保育専門学院・横浜女子短期大学としての85年の歴史が3年後に閉じることになり、胸に去来する様々な思いが走馬灯のように巡ってきました。

創立者、平野恒は「豊かな人間性と専門性を兼ね備えた自立した女性の育成」を理念として、常にキリスト者として祈り求めてきました。

保母学院の時代は戦争の中、戦争未亡人などが、資格をもって自立できるようにと1940（昭和15）年から6期114名、横浜保育専門学院は1948（昭和23）年から、神奈川県委託校として授業料免除があり、18期766名、保母資格のみでした。

短大になるのには大きな壁もありましたが、多くの方のご協力があつて1966（昭和41）年、横浜女子短期大学が生まれました。社会情勢の要請また平野恒の決断により、保母資格と幼稚園教諭二種の資格取得ができるようになり、12,000人余りが学びました。

保育科単科として、実践的な教育により、多くの卒業生が教育・保育・児童福祉施設

等地域社会の分野で活躍しております。

本学の特徴として、教職員との距離の近さもありました。厳しくも暖かな環境の中で学生ひとり一人の個性や夢に寄り添いながら、その成長を見守り励ます教育が行われてきました。知識や技術だけでなく、人として大切な思いやりの心や社会に貢献する姿勢を育むことに力を尽くしてきたことは本学ならではの多大な誇りです。

私達にとって本学は単なる学び舎以上の存在であり、人生の一部であり、思い出の宝庫でもあります。

閉学の決定は多くの関係者にとって衝撃的であり、寂しさや喪失感を伴うものです。特に長きにわたり支えてきた教職員や学生、卒業生にとっては思い出と共に未来への不安もあると思います。

私は閉学の決定を悲観的にとらえるだけでなく、今までの歴史と伝統を大事にして、次世代に引き継ぐための新たな一歩だと考えます。

卒業生の皆さん

この学び舎で培われた「実践力」「人間力」、一人ひとりの卒業生がそれぞれ与えられた場で必ず灯し続けて下さると信じています。建物がなくなっても、創立者平野恒のなぜ保育科を立ち上げたか、その信念は私たちの心に残ります。

それが私たちの心の財産です。終わりに卒業生の皆さん、教職員の皆さん、関係者の皆さんに心より感謝いたします。

△追伸△

三年後に最後の卒業式が挙行されます。

横浜女子短期大学小百合同窓会会員 各位

横浜女子短期大学

2026年度以降の学生募集停止のお知らせ

学校法人白峰学園の教育活動に対しまして、長年に渡り、ご理解とご協力を賜っておりますことを厚く御礼申し上げます。

この度、学校法人白峰学園は、設置校の横浜女子短期大学の入学生募集を2026年度以降行わず、学生募集を停止することを決定しましたのでお知らせいたします。

ご存じの通り、本学園が運営する横浜女子短期大学は、1940年設立の横浜保母学院（1949年、横浜保育専門学院に校名変更）を前身とし、1966年に開学した保育科単科の短期大学であり、これまでに1万3,000人の卒業生を社会に送り出し、その多くが児童福祉と幼児教育に貢献するべく保育の現場で活躍しております。

しかし、近年は18歳人口の減少と進学希望者の四年制大学志向、保育者志望者の減少、専門学校との競合などを背景に志願者の減少を余儀なくされてきました。この間、本学園では、横浜女子短期大学の教育の質を高めるための教学改革を推進し、学生数の回復を目指し、更なる教育課程の見直し及び学生募集対策に取り組んで参りましたが、2025年度の定員充足率は3割に満たない見通しとなりました。

こうした状況を受け本学園は、理事会と評議員会において短期大学の運営継続について議論を重ねた結果、苦渋の決断となりましたが、在学生の修学機会を確保し卒業を可能とすることを最優先に教育活動を行う観点から、横浜女子短期大学の2026年度以降の入学生募集を停止する決断をいたしました。

横浜女子短期大学の今後の運営につきましては、現在の在学生及び2025年度入学生の卒業を可能とし、幼稚園教諭二種免許、保育士資格等の取得が可能となるように、教育機関として責任を持って就職支援も含めた体制を維持して参ります。小百合同窓会各位・卒業生の皆さまに対しましては、このようなお知らせをお伝えしなければならなくなったことを大変申し訳なく感じておりますが、現況につきましてご理解を賜りますようお願い申し上げます。

併設している幼稚園の運営は今後も継続し、幼児教育を通じて地域社会に貢献するため一層の努力を続けていく所存です。

横浜女子短期大学小百合同窓会会員各位、卒業生の皆さまの母校への深い思いとご厚情に改めまして深く感謝申し上げますとともに、このような決断をせざるを得なくなったことを何卒ご賢察の上、ご理解を賜りますよう、また、ご助力、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2025年2月28日

学校法人白峰学園 理事長 平野成輔

横浜女子短期大学 学長 佐藤寛之

まぼろしの会報 (昭和44年発行 発行責任者: 船田 松代)

S 31年卒 坂井 章子



船田同窓会会長
が短大の教育者になら
れ、会報を出

それから故小林陽子先輩が学校新聞の経験があり、割つけ等切り貼りをしたり、夜遅くまで時間を忘れるほど熱中したのは昨日の事のように懐かしいです。

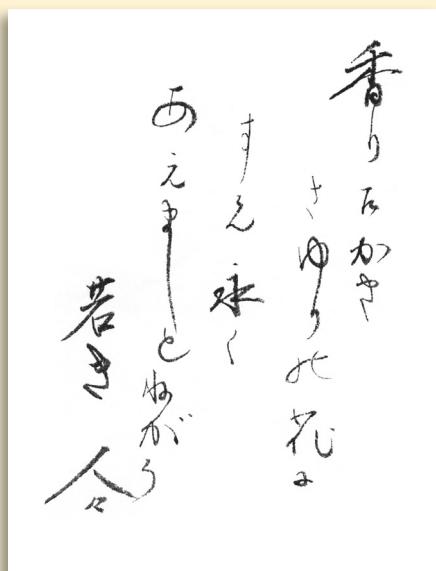
強く、私の働く市立しろばら保育園は短大の近くにありました。こともあり、会長に賛同し、若い卒業生久保田(旧姓:草野)、愛場(旧姓:房野)さん達と同じ職場だったので、ガリ版刷りわら半紙に印刷し、会長の言葉、同窓会役員等、現在の記事とは少し足りない点もありましたが、卒業生も108足らずだったと思われま

宛名は手書きで封筒は池上先生の父上の手作りのもので郵便局で定形に寸法が合わず持ち帰り、船田会長や私達家族も手伝って郵送に漕ぎつけました。その後昭和47年に立派な創刊号ができました。船田会長の念願も叶い発行されました。

平野恒学長先生も大変お喜びになり

「香りたかき、さゆりの花
すえ永く、あえましのね
がう 若き人々」

と認めた書を頂きました。



その当時の印刷屋は卒業生の新井君江先輩の家業でお世話になりました。港南台校舎に移っても会員で手書き、折り、封筒に入れ学生のアルバイトにも手伝ってもらいました。当時編集員は小林(陽)、船田、手塚、小林(枝)、戸田、坂井、橘、三沢、大河原、関戸、熊田、白戸、下河原、滝口さん達でした。他にも短大職員の同窓生にもお世話になりました。

今回で55号。夢のようなうれしさです。感謝するのみです。

保育賞受賞

三浦市 上宮田小羊保育園

H 10年卒 酒井あいり



この度、名誉ある保育賞を頂けたこと嬉しく思っています。いつの頃から保育の道に進んでみ

たいと思うようになり、私も横浜女子短期大学で学びました。今回の受賞をきっかけに学生の頃抱いていた気持ちや、働き始めた頃のことを振り返ってみました。子ども達がかわいい、その思いは今も全く変わ

ありません。

それだけでなく保育の仕事は常に学びの日々でやりがいも感じています。子ども達が未来の道へと進んでいく、土台となる乳幼児期を担う私たちの責任は大きなものであり、卒園後も成長した姿や、親として大人として出会うことに、この仕事に携わってこられた喜びを実感します。

保育現場・子ども達を取り巻く環境も変化していき、新しい対応を求められることも多いですが、これまでの出会いに感謝しながらこれからも目の前の子ども達と共に日々を楽しみながら過ごしていきたいと思

バザー開催のお知らせとお願い

横浜女子短期大学学園祭当日「小百合同窓会総会」後バザーを計画しています。

日時 2025年10月26日(日) 13時00分~15時00分

場所 横浜女子短期大学 302教室・図工室
(変更になる場合有)

主催 横浜女子短期大学小百合同窓会

※バザー収益は短大学生募集停止後の同窓会運営に繰り入れ予定

< お 願 い >

ご自宅等にある不要品、衣類、手づくり品、雑貨等お送りください。

衣 服...未使用、リサイクル品は洗濯済のもの(アイロン必要)

不 要 品...未使用で使用可のもの

手づくり品...材料費は各自ご負担をお願いします。

雑 貨...未使用で破損・汚れ等のない物 等々...

*その他のものは下記の同窓会事務局にご相談ください。

*バザー出品物の短大への送料は各自ご負担ください。

*なお整理の都合上、9月末日までにお送りいただければと思います。

バザー品
送り先

〒234-0054 横浜市内港南区港南台4-4-5

横浜女子短期大学 小百合同窓会 宛

TEL: 045-835-8103 (学生課 滝口)

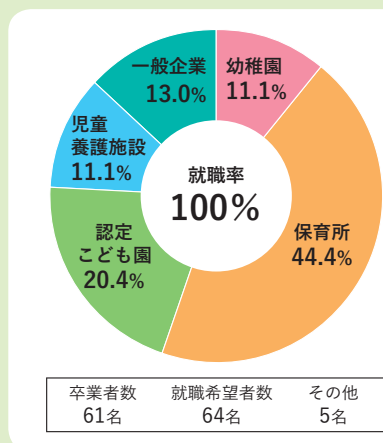
TEL: 045-835-8119 (同窓会室 若崎/水曜日)

2024年度 就職状況報告

2025年3月14日、本学58回目の卒業式が執り行われ、61名の卒業生が巣立っていきました。名前を呼ばれ壇上に上がり、学長先生から学位記を受け取る学生の姿を見て、一人ひとりの就職活動中の苦労や感動が思い出され、心が熱くなる思いがしました。

学生たちは、短大の2年間で自分が希望する就職先に出逢うまで、家族や友人をはじめ、学校の先生方、また初めて出逢う実習先の先生や子どもたちなど、数えきれない程たくさんの人と関わり支えられてきたことでしょう。

「他者と関わっていくこと」は社会の一員として避けて通ることはできません。自分とは異なる価値観や意見を持つ人を理解することは決して簡単なことで



はないかもしれませんが、相手の言葉に耳を傾け、様々な人の気持ちに寄り添うことのできる素敵な保育者になってほしいと心から願っています。

キャリア支援室室長 佐久間 博子



2025年度 総会のお知らせ

今年の総会は大学の学園祭に合わせて開催いたします。

日 時

2025年10月26日(日)
10時半(受付10時から)

場 所

横浜女子短期大学本館
3階合同教室

総会とともに一緒に
学園祭を楽しみましょう。

結成! 同窓生による ハンドベルクラブ

平野 恒先生が残して下さった、貴重なハンドベルをよみがえらせませんか?

同窓生によるハンドベルクラブを結成いたします。一緒に楽しみましょう。

第一回練習会の日程は
10月26日(日)
総会後に行います。

学生時代にハンドベルクラブだった方は、ぜひご参加ください。

総会・ハンドベルクラブについてのお問い合わせ、申し込みは横浜女子短期大学の滝口までご連絡ください。

悲しいお知らせ

S 20年卒 亀野 里子(若林) R 5年9月16日
S 28年卒 佐竹 順(石原) R 6年11月
S 32年卒 安田美智子(五十嵐) R 6年5月22日
S 33年卒 佐藤 和子(鈴木) R 6年1月19日
S 33年卒 白戸 征子(新妻) R 6年11月10日
S 38年卒 星 幸子(小嶋) R 6年1月
S 41年卒 佐久間寿美子 R 6年4月28日
S 44年卒 松浦美枝子(石原) R 5年4月
S 56年卒 齋藤 恭子
H 19年卒 並木 春和

*ご家族の皆様の平安と、ご冥福をお祈りいたします。

事務局から

★学校閉鎖となる2027年度までは年に1度総会と会報発行は継続する予定です。
以降の同窓会活動については検討中です。
また、昨年度は総会が開催されませんでしたので、事業報告および2023年度決算、2024年度予算については役員会で承認させていただきました。詳細につきましては、ホームページをご覧ください。

編集後記

私は卒業と同時に、母校の事務職として勤め、人生の半分以上を母校で過ごし、言葉では言い尽くせないほど育てていただきました。

現在は、新天地で仕事をしています。が、大学にゆかりのある幼稚園、保育園の名前を耳にすることが多く、私は本当に母校に「縁」があると思わずにはいられません。

これからも非力ながら、同窓生の皆さんと母校を繋げる会報を作っていきたいと思っています。

H 8年卒 近藤 由美子

